



SUSTAINABILITY BOOK 2020

サステナビリティブック 2020



サッポロホールディングス株式会社

サッポログループ サステナビリティ方針

大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

サッポログループは、

人々の幸せな笑顔のために、地球環境や社会の課題に向き合い、取り組みます。

自然の恵みの源泉である大地こそ最も重要なパートナーと捉え、

商品・サービスの開発から、お客様が手にしたその後までの全ライフサイクルにおいて、

思いをひとつにするステークホルダーとの協働・共栄に励み、

原点からの発想を大切にし、知恵を尽くして持続可能な笑顔の創出に挑みます。

こだわりの「ものづくり」と、地域に根ざした「まちづくり」、

そして「世界の笑顔の開拓者たれ」の誓いを胸に、

地球上のあらゆる地域における「笑顔づくり」を目指します。



CONTENTS

SUSTAINABILITY BOOK 2020

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 サッポログループ サステナビリティ方針 3 サッポログループ 価値創造プロセス 4 ステークホルダーの皆様へ 6 ブランド価値創造の歩み 7 数字で見るサッポログループ 8 サステナビリティの歩み 10 サステナビリティ経営の推進 16 Special Feature 1 140年を超える原料へのこだわり —サッポロビールの挑戦 22 Special Feature 2 レモンのすべてが語れるレモンカンパニーを目指して | <ul style="list-style-type: none"> 24 4つの約束に基づく取り組み 24 『酒・食・飲』による潤いの提供 27 社会との共栄 32 環境保全 34 個性かがやく人財の輩出 36 コーポレートガバナンス 37 リスクマネジメント 38 コンプライアンス 39 サッポログループの事業展開 41 サッポログループの国内の主な工場・施設 42 コーポレートデータ |
|---|---|

賛同・支持するイニシアティブ

- 国連グローバル・コンパクト(サッポロホールディングスは、国連グローバル・コンパクトに署名しています。)
- 持続可能な開発目標(SDGs)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)



参考としたガイドライン

- GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポートング・スタンダード」(企業のサステナビリティ報告に関する国際的なガイドライン)
- 国際標準化機構「ISO26000」(社会的責任に関する国際的なガイダンス規格)
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

サッポログループ 価値創造プロセス

サッポログループは、140年以上の歴史と対話に基づく独自の「ブランドストーリー」や「ブランド資産」を有しています。そして、「ブランド」を中心とした3つの事業でアプローチすることで、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供し、ステークホルダーの皆様の「笑顔」を持続的に生み出し、増やし続けるサイクルを回しています。

INPUT

1 ブランド資産

自然の恵みの
有効活用
□ P.16

個性かがやく
人財
□ P.34

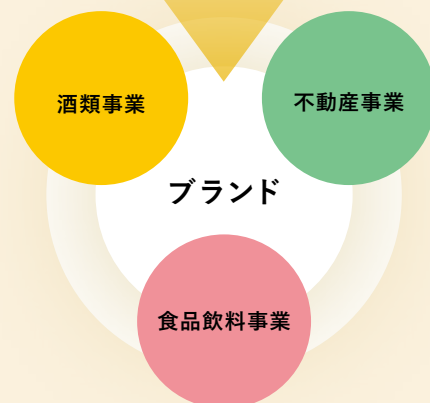
サッポロ独自の
ブランドストーリー
□ P.6

ステークホルダー
との対話

新価値創造を
実現するイノベーション
□ P.24

BUSINESS MODEL

2 ブランドを中心としたアプローチ×3事業



持続可能な価値創造プロセスで、
たくさんの笑顔を生み出す
開拓者であり続けます



OUTCOME

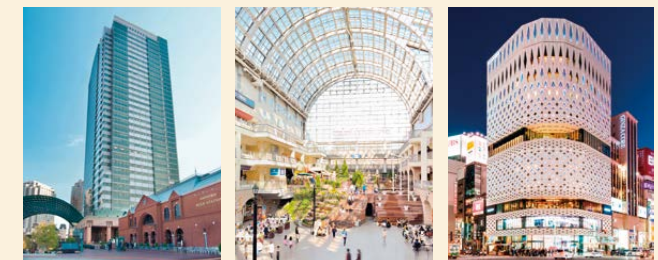
4 サッポログループが創造する価値

商品やサービスの提供を通じて、
お客様同士の
コミュニケーション活性化に貢献。

事業の拡大により、
すべてのステークホルダーの皆様に
「楽しさ」や「喜び」、「明日への活力」を提供。

OUTPUT

3 お客様に寄り添い続けるブランド (商品・サービス)



ステークホルダーの皆様へ



代表取締役社長
尾賀 真城

“ サステナビリティ方針に掲げたとおり
「人々の幸せな笑顔のために」
多様な価値を提供してまいります。

”

はじめに、このたび新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、また感染拡大の影響を受けられたすべての方々に謹んでお見舞い申し上げます。

ウイルスの猛威は全世界的に拡大し、各国の社会経済に大きな影響を引き起こしています。このような中、サッポログループは後述する「サステナビリティ方針」の考え方を踏まえ、企業としての社会的責任を全力で果たしてまいります所存です*。

* 当社の新型コロナウイルス感染拡大への対応方針と取り組みについては、「重要なお知らせ」をご参照ください。



<https://www.sapporoholdings.jp/announce/dit/?id=8643>

ステークホルダーの皆様へ

将来にわたり、サッポログループが社会から求められる企業であり続けるためには、事業活動の中で社会的価値、経済的価値双方の創出に努めつつ、その全体像をわかりやすく発信することが必要です。こうした取り組みは特定部署だけが担う課題ではなく、一人ひとりの日頃の業務が社会や環境の問題に繋がっているという意識を、グループ全体で共有しなければなりません。

そのような観点から当社では、2019年12月に「サッポログループ サステナビリティ方針」を策定するとともに、新たに策定した「グループ経営計画2024」においても「サステナビリティ経営の推進」を基本方針の一つに掲げています。サステナビリティ経営を推進していくことで、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に貢献するとともに、持続可能な社会と持続的な成長の実現を目指していきます。

“

取り組みの主役は
従業員一人ひとりであり、
人財はサステナビリティ
経営の基盤そのものです。

”

このうち環境課題に対しては、2019年9月に「サッポログループ環境ビジョン2050」を策定し、2050年までに自社拠点のCO₂排出量をゼロにする方針を打ち出しました。長期的なコミットメントではありますが、将来当社の中核としてビジョンの実現を担うであろう若手社員たちからも発信があり、経営として掲げたものです。

社会面では、質の高い商品の提供、新商品の開発等を通じてお客様に「潤い」をお届けすることが、まずはメーカーとしての責務です。またサッポログループは、不動産事業を通じたまちづくりに加え、工場や事業所の立地する数多くの地域と接点を持っています。自治体との包括連携協定の締結、住民の方々との交流等により、地域に根ざした事業活動を展開していきます。

こうした一連の取り組みを担うのは一人ひとりの従業員であり、人財はサステナビリティ経営の基盤そのものです。グローバル人財の育成・獲得や女性活躍支援などの取り組みとともに、個々のチャレンジを支援する制度設計、楽しくやりがいを持って仕事に取り組める環境づくり等、引き続きダイバーシティ&インクルージョンを推進し、グループの人財価値を一層高めていく方針です。

一方、企業価値を高めるための基本的な仕組みそのものであるガバナンスについては、ホールディングスの機関設計を変更し、監査等委員会設置会社へ移行しました。これはガバナンス機能のさらなる強化と、経営の

監督・執行の明確な分離を目的としたものです。執行側に一定の権限を委譲することで、取締役会は重要案件の審議に集中でき、また経営全体のスピードアップが可能になります。

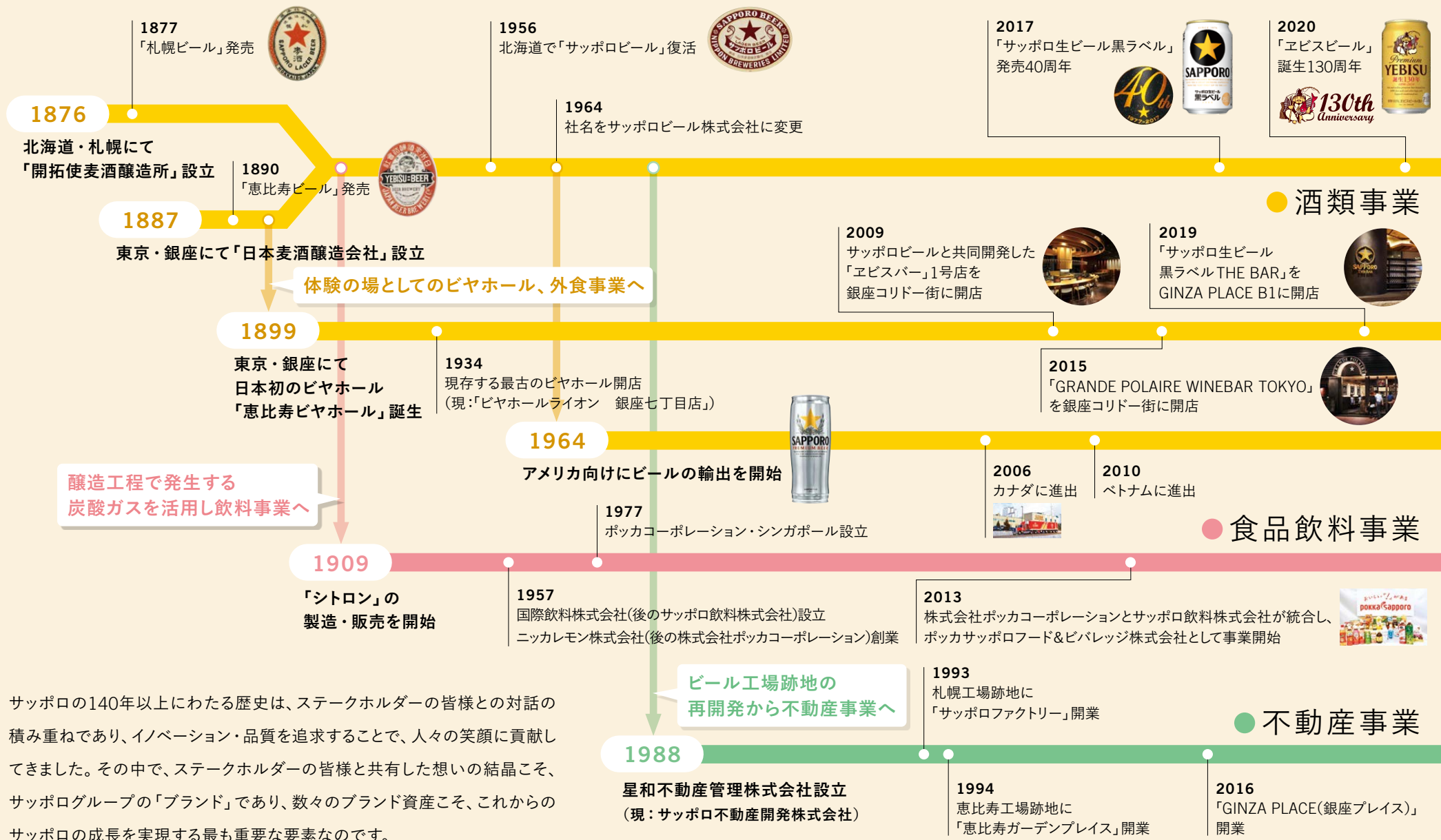
サッポログループは、お客様の認知度が非常に高い「ブランド」を複数取り揃えています。ブランドがブランドたるには、他にない独自性、ブレない継続性、いつまでも古びない時代性、これらの3要素が不可欠です。昔からあるのに新しい、常に新たな挑戦を続けている—そうした企業体として、私たちはサステナビリティ方針に掲げたとおり「人々の幸せな笑顔のために」多様な価値を提供してまいります。ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長

尾賀真城

ブランド価値創造の歩み



サッポロの140年以上にわたる歴史は、ステークホルダーの皆様との対話の積み重ねであり、イノベーション・品質を追求することで、人々の笑顔に貢献してきました。その中で、ステークホルダーの皆様と共有した想いの結晶こそ、サッポログループの「ブランド」であり、数々のブランド資産こそ、これからのサッポロの成長を実現する最も重要な要素なのです。

数字で見るサッポログループ (2019年度)

● 売上収益 **4,919** 億円 ● 事業利益 **117** 億円

酒類事業

売上収益

3,244 億円

事業利益

87 億円

食品飲料事業

売上収益

1,369 億円

事業損失

△ **5** 億円

不動産事業

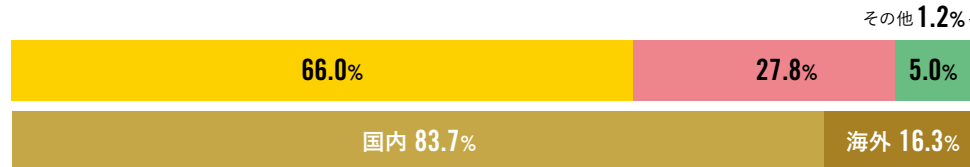
売上収益

247 億円

事業利益

107 億円

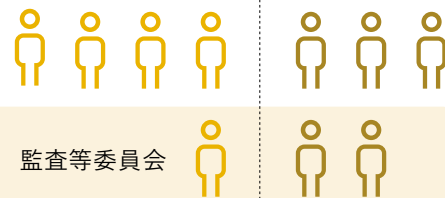
● 売上収益比率



● 取締役人数 独立社外取締役比率

10人 **50%**

取締役会の半数が独立社外
取締役で構成されています。



● 社会

社会貢献活動支出額

4億800万円

連携協定締結数(2020年2月現在)

63件



● 人財

連結従業員数*1

7,736人

平均年齢*2

42.3歳

女性従業員比率*3

21.7%

女性管理職比率*4

8.7%

女性管理職人数*5

148人

育児休暇取得率*6

女性 **100%** 男性 **68%**

新卒入社人数*7

116人

女性比率(新卒入社)*8

44.8%



*1 各社所属ベース(他社からの出向者等を含む)の従業員数

*6 サッポロビール(サッポロホールディングス含む)の育児休暇取得率

*2 サッポロホールディングス、サッポロビール、ポッカサッポロフード
& ビバレッジ、サッポロライオン、サッポロ不動産開発の平均年齢

*7 サッポロビール、ポッカサッポロフード
ライオンの新卒採用者数

*3 国内外のグループの従業員(正社員)に占める女性の割合

*8 サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、サッポロ
ライオンの新卒採用者数に占める女性の割合

*4 国内外のグループの管理職に占める女性の割合

*5 国内外のグループの女性管理職人数

● 酒・食・飲

学術对外発表件数

24件



● 環境

環境に関する数値については、
Webに最新情報を掲載しています。

<https://www.sapporoholdings.jp/csr/esg/>



サステナビリティの歩み

サッポログループは、「潤いを創造し 豊かさに貢献する」という経営理念のもと、社会から信頼される企業としての取り組みを強化するとともに、グループ独自の企業価値の創出に取り組んでいます。今後も、グループならではの価値をグローバルに創造しながら、持続的な成長と持続可能な社会の実現への貢献を両立していきます。

サステナビリティ全般

1984

財団法人サッポロ生物科学振興財団
(現公益財団法人サッポロ生物科学振興財団)設立
バイオサイエンス分野における助成スタート



1987

「箱根駅伝」への応援スタート

2003

「サッポログループ企業行動憲章」策定

2006

「サッポログループのCSR基本方針」策定

2007

サッポロホールディングスが北海道(自治体初)と
包括連携協定締結



2008

大麦とホップの「協働契約栽培」の取り組みで
「ドイツ連邦栄誉賞 金賞」受賞



2009

「第1回恵比寿麦酒祭り」開催



2011

「恵比寿麦酒祭り」におけるビール売上金相当額の東北復興支援に向けた寄付スタート

2013

- ・「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」加盟
- ・「グループ調達基本方針」制定



2017

- ・「サッポログループ健康創造宣言」策定
- ・CSR重点課題を特定し、「4つの約束」策定



2018

- ・CSR重点課題解決に向けた中長期目標を策定し、
関連する「持続可能な開発目標(SDGs)」を明示
- ・「サッポログループ サプライヤーCSR調達ガイドライン」策定



2019

- ・「サッポログループ健康経営中期計画」策定
- ・「サッポログループ サステナビリティ方針」策定
- ・「ホワイト物流」推進運動の自主行動宣言を提出

サステナビリティの歩み

環境

1991

「環境保全に関する基本方針」策定

1996

ポッカコーポレーション(現ポッカサッポロ)が国内飲料メーカー初の「カートカン」商品発売



※ 画像は現在のパッケージです。

1998

- ・サッポロビール北海道工場が「ISO14001」の認証取得(後年、他の主要工場も取得)
- ・サッポロビール静岡工場にビオトープ園開園



サッポロビール北海道工場



ビオトープ園

2002

独自の生ビールサーバーの3R「セパレシステム」導入



2006

サッポロビール北海道本部が「エコアクション21」の認証取得(後年、他の営業拠点も取得)

2009

カーボンフットプリント表示のビール

「サッポロ生ビール黒ラベル350ml缶」を世界で初めて市場に投入



2010

「サッポログループ環境基本方針」制定

2011

東京エネルギーサービスが日本のエネルギー供給業界・不動産業界初の「ISO50001」の認証取得

2012

「サッポログループ生物多様性保全ガイドライン」制定

2013

「サッポログループ グリーン調達基本方針」策定

2019

- ・「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同表明
- ・「サッポログループ容器包装ビジョン」を策定
- ・「サッポログループ環境ビジョン2050」策定

TCFD | TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

サステナビリティ経営の推進

サッポログループのサステナビリティ方針

サッポログループは、気候変動、食品ロス、海洋プラスチックごみ、地域活性化といった社会課題に対する事業を通じた取り組みを「サステナビリティ経営」として力強く推進するため、「サッポログループ サステナビリティ方針」を策定しました。

世界中のサッポログループ従業員と、ステークホルダーとのパートナーシップのもとに、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

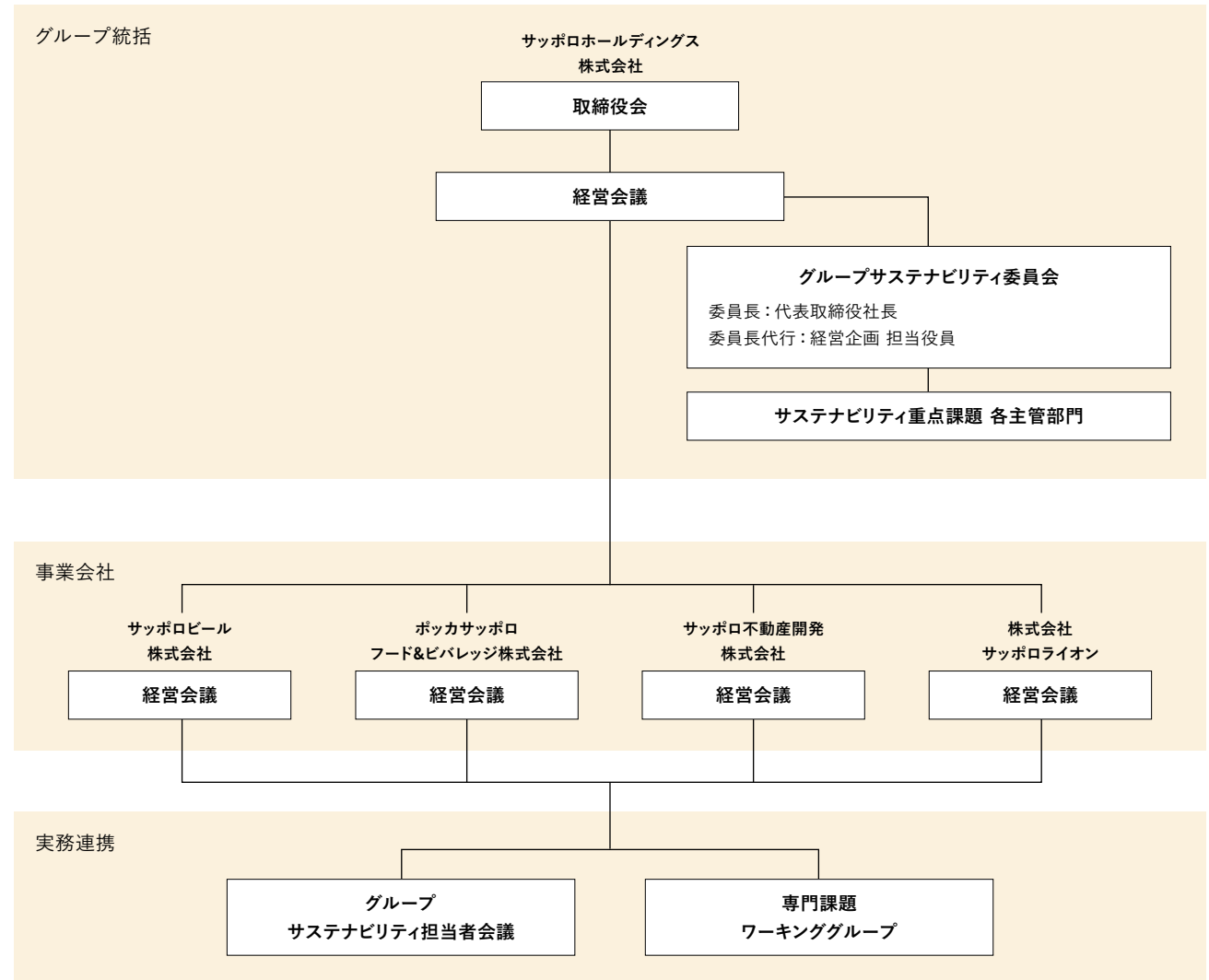
→ □ P.1「サッポログループ サステナビリティ方針」

サステナビリティ推進体制

サッポロホールディングスは、サッポログループのサステナビリティ活動推進のための全体方針を策定し、グループ内の連携・調整を行うための機関として、代表取締役社長を委員長とする「グループサステナビリティ委員会」を設置しています。

サッポロホールディングス経営企画部は、グループ各社のサステナビリティ活動推進のための諸施策を立案・実施しているほか、事業会社のサステナビリティ担当者の会議を隔月で開催し、情報共有と進捗の確認を行っています。

サッポログループのサステナビリティ推進体制 (2019年12月現在)



サステナビリティ経営の推進

サッポログループを取り巻く
社会の現状・課題

サッポログループを取り巻く社会は、加速度をもってますます速く、大きく変化しています。少子高齢化により、酒類・食品・飲料の日本国内総需要は減少する中、グローバル市場に目を向ければ、人口が今後急激に大きく増加するといわれています。AIや5Gといった技術の進展も著しく、人々のライフスタイルや嗜好性は多様化を極めてしています。



一方で、このグローバル市場は地球環境の営みの上に成り立っており、気候変動や食品ロス、プラスチックごみなどの地球環境・社会課題に加え、感染症拡大という世界的にも類を見ない危機に直面した中にあることも事実です。

自然の恵みでビジネスを行うサッポログループにとって、地球環境の保全、あるいはその変化への適応は喫緊の課題です。また、今般直面した世界的状況の中で現れてきた人々の暮らし方の変化、2020年より2026年にかけて段階的に実施が予定されている国内の酒税に関する税制改正等も含め、こうした変化は、新たなビジネス機会に繋げるチャンスとも捉えています。私たちが活動

するすべての地域とともに、従業員も含めたステークホルダーの皆様の多様な価値観とともに、『酒・食・飲』の事業分野で、潤いを創造します。

サッポログループは、これからも人々の笑顔のために、社会課題に向き合い、持続可能な社会と持続的なグループの成長の両立を実現していきます。



サッポログループ環境ビジョン2050 (2019年9月20日制定)

大地が育む自然の恵みに感謝し、サッポログループ社員一人ひとりが、積極的に環境保全に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します

1. 脱炭素社会の実現

- ▶ 自社拠点でのCO₂排出量ゼロを目指します
- ▶ 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量の削減に努めます

2. 循環型社会の実現

- ▶ グループ全体で、事業に関わるすべての資源の3R*に努めます
 - ・循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します
 - ・工場での水使用量削減に継続的に努め、持続可能な水資源利用を実現します

* Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRの総称

3. 自然共生社会の実現

- ▶ 大麦・ホップの研究開発を通じて持続可能な調達に貢献します
- ▶ 持続的に自然と共生できる豊かな時間と空間を感じるまちづくりに貢献します



Sustainable Smile Plan

「サッポログループ サステナビリティ方針」のもとに、サステナビリティ経営戦略「Sustainable Smile Plan」を展開します。

その取り組みの軸となるサステナビリティ重点課題を「4つの約束」として整理し、
バリューチェーン上のさまざまなステークホルダーと協力しながら、持続可能な笑顔づくりを推進し続けます。

サステナビリティ重点課題と4つの約束



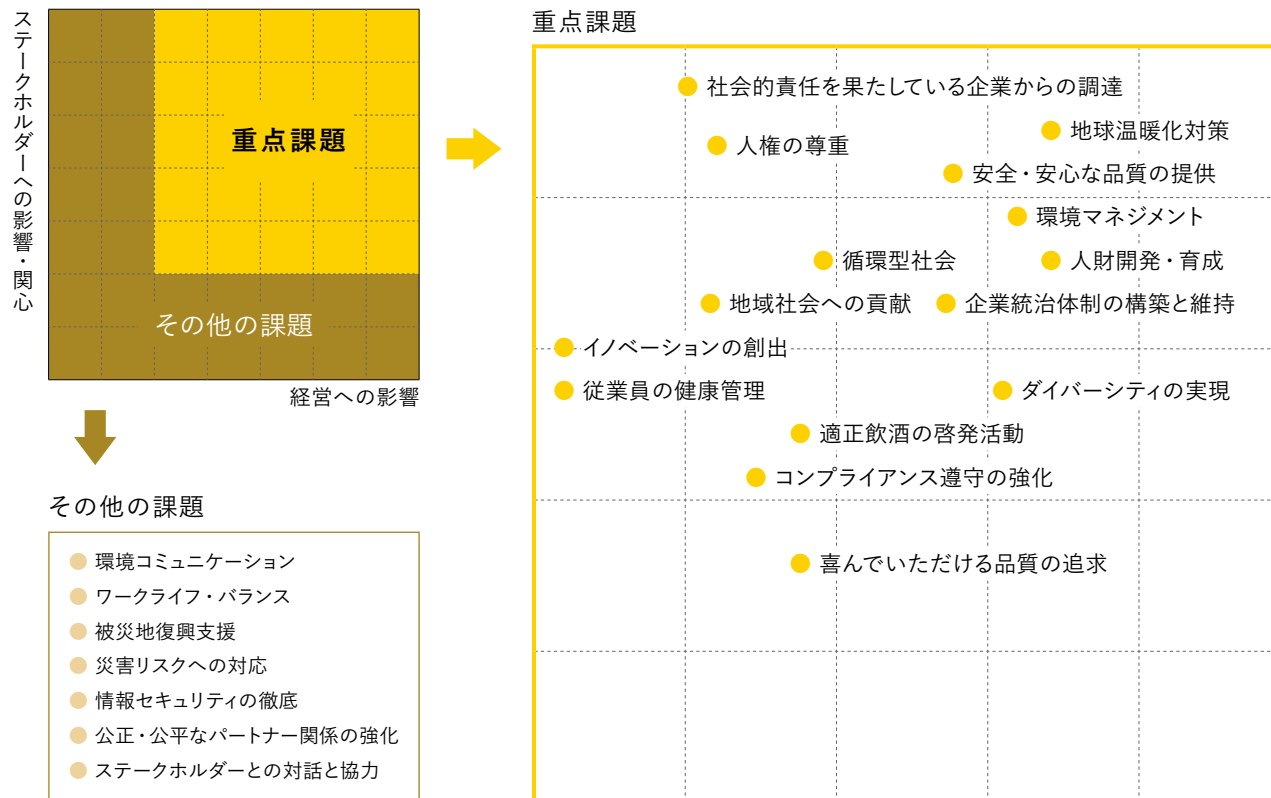
大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

サステナビリティ経営の推進

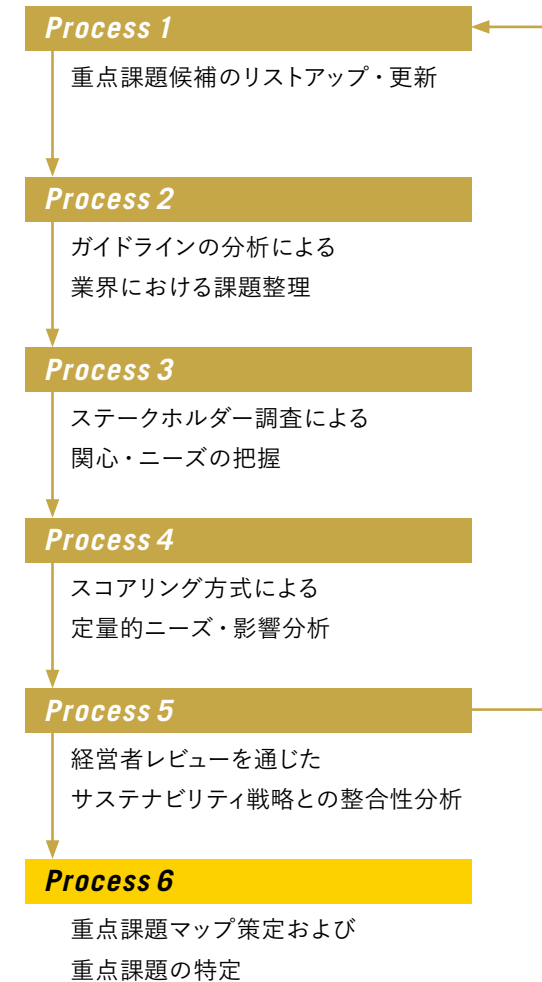
重点課題の特定・更新プロセス

サステナビリティ重点課題の特定に向けては、経営への影響度およびステークホルダーへの影響・関心度を二軸に、重点課題候補をマッピングして絞り込みを行いました。その上で、重点課題候補をガイドラインやステークホルダー、経営者などのさまざまな視点から分析し、重点課題を特定・更新しています。

重点課題の特定



更新プロセス



サステナビリティ経営の推進

サッポログループ サステナビリティ重点課題 中長期目標

サッポログループは、事業活動を行うにあたり特に重要と捉えて重点的に取り組む「サステナビリティ重点課題」について、課題解決に向けた中長期目標を策定しました。また、個々の中長期目標について、関連する国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を明示しました。

中長期目標はサッポログループの長期経営ビジョン「SPEED150」、「グループ経営計画2024」を踏まえたものであり、今後、サッポログループの事業戦略や個々の施策における重要な道筋と位置付けます。目標達成に向けてグループ各社各部門が具体的施策を設定して積極的に取り組みを進め、SDGs達成とお客様の豊かな生活の実現に貢献していきます。

約束	重点課題	SDGs	ターゲット	2030年までの中長期目標
『酒・食・飲』による 潤いの提供	安全・安心の品質		2.1	<ul style="list-style-type: none"> ・『酒』『食』『飲』の品質を高める企業文化醸成・人財の継続的育成に努め、国際標準である食品安全システムの活用を基本として、効果的な品質保証体制を構築する。 ・お客様のニーズに応じた適切な品質レベルを追求し、商品・サービスの品質トラブルゼロを目指す。 ・新技術を積極的に取り入れ、高レベルの品質をより効率的に実現していく。
	新価値創造	  	2.4 3.4 17.17	<ul style="list-style-type: none"> ・未来の変化を先取りし、「おいしさ」と「健康」のニーズに応えるための研究開発を推進する。 ・強みを有する植物性素材の研究と加工技術を生かした商品を通じて、新たな顧客価値を提供する。 ・グループ内外の連携を強化し、多様な技術を効率的に獲得し、イノベーションを推進する。
	適正飲酒啓発と ビール文化継承		3.4 3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進する。 ・ミュージアム・工場の見学、「日本ビール文化研究会」の支援を通じて、日本のビール文化の継承を図り、潤いのある生活に貢献する。(サッポロビール、サッポロライオン)
社会との共栄	地域貢献	  	8.9 11.3 17.7	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員一人ひとりが、地域貢献活動に積極的に取り組むことで、地域の発展に貢献する。 ・商品、サービスを通じて地域とつながり、共に課題の解決に取り組む。 ・行政やパートナーと協働し、豊かな「まちづくり」を推進することで、地域の魅力向上に貢献する。(サッポロ不動産開発、サッポロライオン)
	持続可能な調達	 	10.3 13.1	<ul style="list-style-type: none"> ・主要調達先のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合を90%以上とする。(サッポロビール、ポッカサッポロ)

サステナビリティ経営の推進

サッポログループ サステナビリティ重点課題 中長期目標

約束	重点課題	SDGs	ターゲット	2030年までの中長期目標
環境保全	地球温暖化防止	       		<ul style="list-style-type: none"> ・自社拠点でのCO₂排出量を2013年比で20%削減する。 ・自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量削減に努める。
	3Rの推進		2.1 6.4 7.2 12.2 12.3 12.4 12.5 13.1 14.1 15.4 17.16 17.17	<p>水資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産工場における水使用総量を2013年比で10%削減する。(サッポロビール、ポッカサッポロ) ・グローバルでの水リスクへの対策を実施し、水資源保全に努める。 <p>容器包装</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装のリデュース(軽量化・簡素化)を維持・拡大する。 ・再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減する。 ・社外との連携・協調を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献する。 <p>廃棄物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外食店舗、食品流通における食品ロスの削減に努める。(国内事業会社) ・2024年までに食品廃棄物の再生利用等実施率50%を実現・継続する。(サッポロライオン) ・廃棄物再資源化率の向上に努め、主要工場(※)では100%を実現する。(国内事業会社(※サッポロビール、ポッカサッポロ))
	自然との共生			<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動に対応可能な特性を持つ大麦・ホップを開発する。(サッポロビール) ・「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」を中心に、近隣生活者に自然と共生する暮らしを提供する。(サッポロ不動産開発)
個性がやく 人財の輩出	健康経営		3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員および家族に健康への意識向上・行動変容を促し、健康維持増進につなげる。
	ダイバーシティ・人権			<ul style="list-style-type: none"> ・従業員一人ひとりがダイバーシティへの理解をより深め、誰もが生き生きと働ける環境を目指す。 ・女性管理職・女性役員比率を向上させる。(全社員に占める女性比率相当)
	人財開発・育成	 	5.5 8.5	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分のキャリアは自分で切り拓く」従業員が活躍できる体制を整える。 ・がん治療中・介護中の社員が働き続けられる環境整備を行う。 ・障がい者雇用率3%を達成する。

★ Special Feature 1



140年を超える原料へのこだわり ——サッポロビールの挑戦

サッポロビールには1876年創業時より、「選りすぐりの原料だけで、おいしいビールをつくる」という信念が受け継がれています。それは、良質な原料を得るために大麦とホップを自ら育種するこだわりと、「協働契約栽培」という独自の原料調達システムを採用し、良質な原料を調達するこだわりを表れています。

「育種」とは、異なる性質を持つ個体同士を交配し、今までにない良質な品種をつくる研究開発。サッポロビールは、原料開発研究所の原料育種開発センター、原料品質管理センター（大麦）、北海道原料研究センター（ホップ）を拠点に、国内外の大学や研究機関、製麦会社、ホップディーラーと連携しながら新品种の開発に取り組んでいます。また、育種で培ったノウハウは、畑から品質をつくり上げる「協働契約栽培」にも活かされています。

「お客様へよりおいしいビールをお届けしたい」という想い、この140年を超える原料へのこだわりは、サステナビリティ重点課題解決に向けた取り組みに繋がっています。明日のお客様の笑顔のために、これからも原料からのビールづくりで持続可能な社会の実現に貢献していきます。



育種・協働契約栽培で
サステナビリティ重点課題の解決へ

1. 新価値創造 □ P.17

原料からの価値創造

2. 安全・安心の品質 □ P.17

「協働契約栽培」による高品質の追求

3. 地域貢献 □ P.18

原料の開発、生産・商品化による地域との共栄

4. 3Rの推進 □ P.18

食品ロス対策への活用

5. 自然との共生 □ P.19

気候変動に対応可能な特性を持つ

大麦・ホップの開発

次世代教育

140年を超える原料へのこだわり —— サッポロビールの挑戦

1. 新価値創造

原料からの価値創造

ビールを劣化させる原因の一つが大麦に含まれる酵素リポキシゲナーゼ-1(LOX)。サッポロビールは長年の研究の末、香味劣化の要因となるこの酵素を持たないLOXレス大麦を岡山大学と共同で見つけ出すことに成功しました。世界各地の育種機関と共同で品種開発を実施し、カナダ、オーストラリア、欧州においてLOXレス大麦品種の育成に成功しています。このLOXレス大麦を麦芽に加工し、ビールの鮮度を長持ちさせ、泡品質を向上する「旨さ長持ち麦芽」として「サッポロ生ビール黒ラベル」に使用しています。

最近の事例では、このLOXレス大麦を北海道の優良ビール大麦と掛け合わせることで新たな品種「きたのほし」を開発し、生産・商品化しています。



旨さ長持ち麦芽
(LOXレス大麦麦芽)使用商品



左:「サッポロ生ビール黒ラベル」(一部使用)
右:「サッポロ 北海道 奇跡の麦 きたのほし」

2. 安全・安心の品質

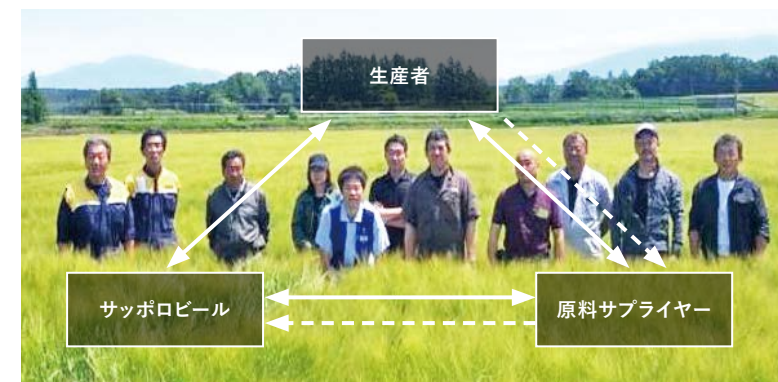
「協働契約栽培」による高品質の追求

サッポロビールは「おいしさ」と「安全・安心」をお客様に提供するために、原料の調達にも徹底的にこだわってきました。それが、生産者やサプライヤーとともにつくる「協働契約栽培」というシステムです。「協働契約栽培」は、

- 1 大麦とホップの産地と生産者が明確であること
- 2 生産方法が明確であること
- 3 当社と生産者の交流がされていること

この3つを柱とした活動を通じて、生産者とともに麦芽とホップを畑からつくり上げるサッポロビール独自の原料調達システムです。

協働契約栽培



◄—► 情報の流れ - - - ► モノの流れ

140年を超える原料へのこだわり ― サッポロビールの挑戦

3. 地域貢献

原料の開発、生産・商品化による地域との共栄

北海道の上富良野はサッポロビールで開発したビール大麦とホップの両方が生産されている国内唯一の地域です。その地域特性を活かし、地域限定商品の製造受託や商品を通じたイベントへの協力などにより地域の振興を支援しています。



上富良野の地域限定商品
「まるごとかみふらの」

ビールの需要減少をはじめ生産者の高齢化や後継者不足などの要因により、日本産原料の生産量は年々減少しています。サッポロビールは大麦とホップの品種を開発し、国内での生産普及に努めてきました。今後も持続的に開発し、さらには生産・商品化によるブランド価値の向上を図ることで日本産原料の活性化に貢献していきます。

日本産の大麦やホップ使用商品



左：「サッポロ生ビール黒ラベル エクストラブリュー」
右：「サッポロ 北海道 奇跡の麦 きたのほし」

4. 3Rの推進

食品ロス対策への活用

食品ロスが大きな社会問題となっています。サッポロビールはビールを劣化させる酵素を持たないLOXレス大麦を原料とする「旨さ長持ち麦芽」の採用、生産工程で酸素に触れない製法、物流では定温輸送や揺れを防止することで劣化を防ぐなどの取り組みにより、賞味期限の延長を実現しています。

旨さ長持ち麦芽



生産工程で 酸素に触れない製法



定温輸送、揺れ防止 などにより劣化を抑制



ビールテイスト商品の賞味期限を9ヵ月から12ヵ月へ延長し、旬表示を月表示に変更



※ 国内製造の缶・びん商品

140年を超える原料へのこだわり —— サッポロビールの挑戦

5. 自然との共生

気候変動に対応可能な特性を持つ 大麦・ホップの開発

地球的規模での食料・環境問題解決に貢献するため、2017年に学校法人東京農業大学と包括連携協定を締結しています。同大学とサッポロビールは現在、ホップの根系の発達が乾燥など水ストレスへの適応能力を高めているという仮説に基づき、根系発達の品種間差異について共同



サッポロホールディングス株式会社と東京農業大学との
包括連携協定締結式



東京農業大学との共同研究・調査

研究を進めています。こうした取り組みを通じて、異常気象に伴う干ばつや多雨などの影響に対応できる品種の開発を目指しています。

次世代教育

サッポロビールは次世代を担う子どもたちの環境意識を育むため、岡山大学と共同で大麦の体験イベントを群馬工場では毎年開催しています。このイベントは、地元の小学生を対象として2008年から継続している取り組みです。北関東で広く栽培されている大麦の種まきや収穫体験を通じて、自然に触れることや、地元の農産物に対して興味を深めてもらう機会を提供しています。



大麦の収穫体験



大麦の種まき体験

140年を超える原料へのこだわり —— サッポロビールの挑戦

サッポロビールの大麦とホップの歴史

	日本麦酒 札幌麦酒	大日本麦酒	日本麦酒	サッポロビール
開拓使麦酒醸造所				
大麦	<p>1872 東京・札幌でビール大麦の試験栽培開始</p> <p>1890 北海道で契約栽培開始*</p>	<p>1897 札幌麦酒、札幌市内に大麦試験地を開設</p> <p>1919 「北海道シバリー(豊平15号)」を育成、種子更新に寄与</p>	<p>1981 「はるな二条」品種登録</p> <p>1996 「みょうぎ二条」品種登録</p> <p>2008 「CDC PolarStar」品種登録</p> <p>2011 「彩の星」品種登録</p> <p>2016 「札幌2号」品種登録 国産初のLOXレス品種商標「きたのほし」</p> <p>2017 「CDC Goldstar」品種登録</p>	
	<p>1871 開拓使に雇われた学者のトーマス・アンチセルが現在の北海道岩内で野生ホップを発見</p> <p>1875 東京・札幌でホップの試験栽培開始</p> <p>1919 長野県で「信州早生」の契約栽培開始</p> <p>1926 「上富良野ホップ園」開設</p>	<p>1984 「フラノエース」「ソラチエース」品種登録</p> <p>1989 チェコにおいてウイルスフリー苗の支援開始</p> <p>2007 「フラノスペシャル」品種登録</p> <p>2017 「フラノ0802D号(フラノプラン)」品種登録 「フラノ0901B号(フラノローザ)」品種登録</p> <p>2020 「ソラチエース」国内生産量拡大(上富良野産)</p>		
出来事	<p>1876 「開拓使麦酒醸造所」設立</p> <p>1877 冷製「札幌ビール」発売</p> <p>1890 「恵比寿ビール」発売</p> <p>1899 「恵比寿ビヤホール」開設(日本初のビヤホール)</p>		<p>1989 「サッポロ生ビール黒ラベル」が正式名称に</p> <p>1994 サスカチュワン大学(カナダ)と大麦の共同育種開始</p> <p>2006 麦芽とホップの協働契約栽培を宣言</p> <p>2008 協働契約栽培が「ドイツ連邦栄誉賞金賞」を受賞し、バーデンブルテンベルク州政府より認証取得</p> <p>2015 「日本育種学会賞」受賞</p> <p>2018 「農芸化学技術賞」受賞</p>	

大麦

ホップ

出来事



*契約栽培の始まりを示す「約定書」



140年を超える原料へのこだわり ― サッポロビールの挑戦

TCFD 提言への賛同

サッポロホールディングスは、企業における気候変動のリスクと機会に関する評価・管理、情報開示を促すTCFD*の提言に賛同しており、積極的な情報開示を進めています。現在は気候変動が進むことによるシナリオ分析を進めています。



* TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)
主要国の中央銀行や金融規制当局などが参加する国際機関である金融安定理事会(FSB)によって設置されたタスクフォース。
気候変動に関する情報開示のフレームワークを示している。

TOPICS

グランポレール北海道北斗ヴィンヤード開園

昨今地球温暖化の影響もあり、ワイン用ぶどうの栽培適地がしだいに北上しています。サッポロビールは将来を見据え、2018年6月、北海道北斗市に「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」を開園しました。2019年より第1期の植栽を開始しており、2020年第2期の植栽を行いました。このヴィンヤードは、1896年にトラピスト修道院によって開墾がスタートした土地で、25.4haに及ぶ広大な面積を有しており、高品質なぶどうの栽培を可能にする気候や土壌など、高級ワイン用ぶどうの栽培に最適な諸条件を備えています。安曇野池田ヴィンヤード(12.6ha)、長野古里ぶどう園(3ha)に続く3番目の自社畑となります。

「グランポレール」は、ワイン事業における日本ワインのフラッグシップブランドで、世界に誇れるプレステージなワインとして2003年に発売し、「北海道」「長野」「山梨」「岡山」の4つの産地のぶどうの個性を活かした「土地・自然・人」が奏でる絶妙なハーモ

ニーとベストバランスを最大の特長としています。その品質の高さは、国内外問わず評価されており、多くの賞を受賞しています。日本ワインは、サッポログループの原点となる「ものづくり」を体現する事業ともいえます。日本が誇る、世界的なラグジュアリーブランドとなるよう、盛り上げていきます。



★ Special Feature 2

レモンのすべてが語れる レモンカンパニーを目指して



レモン関連商品のラインアップ拡充により、
レモン市場の拡大を目指す。



60年以上の歴史を持つレモン事業は、ポッカサッポロにとって基幹事業であり、強みそのものです。「レモンのある食生活」を提案することで、一人でも多くのお客様にレモンを好きになっていただきたい。ポッカサッポロはそうした想いで、レモン市場全体の拡大に取り組んでいます。

地域との共創で、未来へ繋げるレモン栽培

昨今、レモンの需要拡大により、国産レモンの市場が伸長している一方で、レモン生産者の高齢化や後継者不足などの影響から生産量が不足しており、高まる需要に十分に対応できない状況となっています。ポッカサッポロは、これらの課題に対し、自らが積極的にレモン栽培に携わることで、生産者の皆様とともに生産振興を進め、さらなる国産レモン市場の活性化に寄与することを目指しています。レモンの振興などに関する協定を結ぶ広島県の大崎上島町で、2019年4月よりレモン栽培を開始したことで、より一層レモンの価値向上や国産レモンのさらなる活性化に向けて、地域とともに農業環境づくりに取り組んでいきます。



レモン価値を創造し、提供する

ポッカサッポロは、1957年より「ポッカレモン」の発売を開始し、レモンの用途拡大への訴求や容器・容量のバリエーションを増やすなど、60年以上にわたり時代の変化に合わせて商品を展開してきました。ご家庭の料理で使用できる100%レモン果汁・保存料無添加の「ポッカレモン100」をはじめ、レモンのおいしさを手軽に体感できる飲料「キレートレモン」、さらには飲食店で提供される飲み物や食事に使われる業務用レモン商品など、ご家庭の食卓から外食まで、人々の生活に寄り添うレモン商品を提供し続けています。

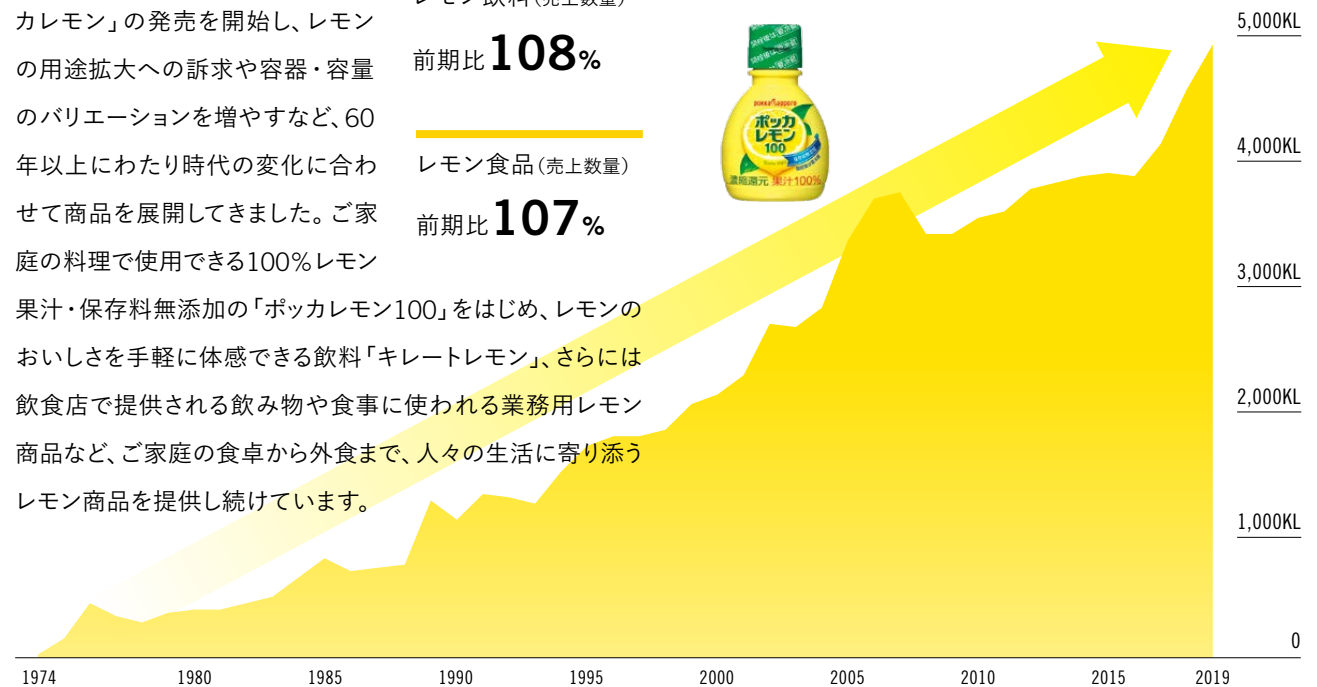
レモン飲料(売上数量)

前期比 **108%**

レモン食品(売上数量)

前期比 **107%**

「ポッカレモン100」販売総容量



出典：ポッカサッポロフード&ビバレッジ「ポッカレモン」販売総容量(期間：1974～2011年(4～3月)集計、2012～2019年(1～12月)集計)

レモンのすべてが語れるレモンカンパニーを目指して

「レモネードスタンド普及協会」を通して小児がん支援に寄付

ポッカサッポロは、日本においてレモネードの文化が広がってほしいとの想いから、「LEMON MADE」という新しいブランドを2019年に立ち上げ、「LEMON MADE オリジナルレモネード」「LEMON MADE レモネードソーダ」を発売しました。

また、これら2商品の売上の一部を、小児がん支援のチャリティ活動を推進する「レモネードスタンド普及協会」を通じて、日本小児がん研究グループ(JCCG)に寄付しました。小児がん治療の研究や発展のための支援金として役立てていただきます。



贈呈式にて
左：JCCG理事長 足立先生
右：ポッカサッポロ事業戦略本部長 加藤



左：2019年6月3日期間限定発売
「LEMON MADE オリジナルレモネード」
右：2019年9月2日期間限定発売
「LEMON MADE レモネードソーダ」

「レモネードスタンド普及協会」とは

アメリカでは、子どもたちがお金の使い方を学びながら、お小遣い稼ぎもできる文化として定着している「レモネードスタンド」。その職業体験を楽しむだけでなく、集めたお金を小児がん治療のために寄付するという社会貢献活動としても広がっています。

日本でも、レモネードスタンドを通して、小児がん支援の輪が広がることを願って「レモネードスタンド普及協会」が2016年に設立されました。ポッカサッポロは、レモネードスタンド普及協会をサポートし、レモネードづくりに必要なレモン果汁を提供するなど、小児がん支援を行っています。

名古屋グランパスと「食育活動推進パートナー契約」締結

2019年4月、ポッカサッポロの本社がある名古屋のサッカーチーム「名古屋グランパス」と食育活動推進パートナー契約を締結しました。名古屋グランパスにとって、初めてとなります。名古屋に本社を構えるこの2社で、ホームタウンの皆さんに食とスポーツの関わりを体感していただく機会と楽しく学ぶ機会を創出し、地元を元気にする共同事業を進めていきます。



名古屋グランパス ©N.G.E

恵比寿のレモンの木が結実

ポッカサッポロは、2017年に「レモンについてもっと知ってほしい」という想いから、東京本社がある「恵比寿ガーデンプレイス」の「サッポロ広場」に、レモンの木を合計10本植樹しました。これらのレモンの木は、同広場を訪れた人々に見守られながら、台風にも負けずにすくすくと育ち、2019年11月に実が色づき始め、2020年1月には初めての収穫を行いました。恵比寿の街でレモンを育てることで、これからもレモンについての知識を広めていきます。



恵比寿ガーデンプレイス「サッポロ広場」
レモンの木植栽コーナー



レモンの収穫

レモンミュージアムサイト開設

レモンの情報やレモンに関する取り組みを集約したサイト「レモンミュージアム」を2020年4月に開設しました。



<https://www.pokkasapporo-fb.jp/lemon-museum>



4つの約束に 基づく取り組み

約束

1

『酒・食・飲』による 潤いの提供

『酒』『食』『飲』を通じて、
新しい価値を創造し、お客様に
喜びと潤いをお届けします。



▶ 安全・安心の品質

酒類・食品飲料工場での安全認証を取得

サッポログループではこれまでに、商品製造組織に向けた国際的な食品安全マネジメントシステム規格「FSSC22000」の認証を、酒類主要8工場とポッカサッポロ群馬工場にて取得しています。

2019年には新たにポッカサッポロ名古屋工場が「FSSC22000」を取得、さらに沖縄ポッカ食品(株)が最新版食品安全マネジメントシステム「ISO22000:2018」を取得しました。サッポログループは今後も、品質保証体制のレベル向上に向けて取り組んでいきます。



「交流高電界殺菌技術」が

「農林水産技術会議会長賞 民間企業部門」受賞

ポッカサッポロの「ポッカレモン100*」の製造に導入している「交流高電界殺菌技術」が、革新的な殺菌技術を果汁製造ラインで実用化した点で評価され、農林水産省および(公社)農林水産・食品産業技術振興協会が実施する「令和元年度(第20回)民間部門農林水産研究開発功績者表彰」において、「農林水産技術会議会長賞 民間企業部門」を受賞しました。

この技術は、農研機構食品研究部門、(株)フロンティアエンジニアリングと共同で開発・実用化した業界初の殺菌技術で、食品の内部に電流を流すことによって食品自体が発熱することと電気的な殺菌作用が生じることの相乗効果を利用した、食品中に存在する微生物を迅速かつ効率的に殺菌できる技術です。これにより、熱による変色、加熱臭の発生などが抑えられ、より良い品質の商品をお届けできるようになりました。

*「ポッカレモン100」120ml、300ml、450mlの3商品。



▶ 新価値創造

レモン由来の機能素材で

顔のむくみ軽減効果を実証

～女性の活躍をレモンポリフェノールで応援～

レモン効果から抽出したポリフェノール「レモン由来酵素処理ヘスペリジン」の新たな健康機能として「顔のむくみを軽減する効果」を臨床試験で実証しました*1。レモン素材でこの効果を検証したのは日本で初めてです*2。

日本では女性の7割以上がむくみを経験しており、さらに3人に2人以上の方がむくみに悩まされています*3。

今後も、グループが誇るレモン素材など、健康機能を表現・体感できる商品の研究開発を進め、食を通じて日常生活の課題解決を図ることで、お客様に健やかで輝く笑顔(ウェルネス)をお届けしていきます。

*1 東洋精糖(株)との共同研究。雑誌「薬理と治療」2019年47巻2号に掲載。

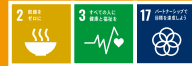
*2 当社調べ(2019年9月12日時点)

*3 当社調べ(2019年9月実施の日本人男女20～50代の1,094人を対象としたWebアンケートによる)



4つの約束に基づく取り組み

約束 1 『酒・食・飲』による潤いの提供



▶ 新価値創造

サッポログループで初めての独自開発素材による 機能性表示食品「スイッチ乳酸菌」

サッポログループでは、ビール原料である大麦に由来するSBL88乳酸菌の機能性研究を重ねてきました。

中でも睡眠の質に関わる、起床時の疲労感や眠気を軽減する機能については、大規模ヒト臨床試験でその効果を確認しました。2019年2月に設立した新会社サッポロウエルネスラボ(株)にて本研究成果の具体化を進め、機能性表示食品「スイッチ乳酸菌」を2020年4月より発売開始しています。睡眠に関する悩みをお持ちの多くの皆様の睡眠の質を改善し、生き生きとした日常生活をサポートする商品です。今後もサッポログループの知見と素材を活用した新しい価値の提案に努めていきます。



▶ 適正飲酒啓発とビール文化継承

日本のビール文化を発信し、豊かな生活に貢献する

日本のビール文化を発信し、豊かな生活に貢献していくため、サッポログループはさまざまな取り組みを行っています。

1

日本で唯一のビール博物館である「サッポロビール博物館」

偉人たちが情熱を傾け誕生した日本のビールの歴史そのものを伝えるとともに、サッポロビールが受け継ぐビールにかけた想いやストーリーを発信しています。



2

エビスビール生誕地の「エビスビール記念館」

1890年に東京・恵比寿で生まれた「エビスビール」。発祥の地で歴史と時代を超えたうまさ堪能できるミュージアムです。



3

一般社団法人日本ビール文化研究会への協力

ビールのことを深く知り、もっとビールを好きになっていただくため、2012年より「日本ビール検定(通称:びあけん)」を実施しています。2019年までの受検申込者累計総数は約27,000人となり、近年ますます増加しています。



※ 適正飲酒啓発につきましては、26ページの「アルコール関連問題」をご参照ください。

「恵比寿麦酒祭り」を開催

「恵比寿麦酒祭り」は、恵比寿の街と「エビスビール」を育んでくださったお客様への感謝の気持ちをお伝えするとともに、日本のビール文化をより豊かなものにするを目的に2009年から始まったビアフェスティバルで、毎年9月に「恵比寿ガーデンプレイス」で開催しています。

※ 2020年は開催中止



アルコール関連問題



サッポロビール(株)
取締役執行役員
宮石 徹

サッポログループは、企業行動憲章に基づき「サッポログループの適正飲酒に関する基本方針」を定め取り組みを行っています。酒類事業を展開する企業として責任ある行動をとり、従業員への適正飲酒教育にも積極的に取り組んでいます。また、サステナビリティ重点課題に「適正飲酒啓発とビール文化継承」を掲げており、「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進していくと同時に、日本のビール文化の継承を図り、潤いのある生活に貢献していきます。

サッポログループの適正飲酒に関する基本方針

「サッポログループ企業行動憲章」には、社会との関係において酒類に対する基本方針を次のように規定しています。

- ▶ 酒類の製造販売および広告宣伝においては、酒類の特性に鑑み社会的配慮をもって臨みます。
- ▶ 健康で明るい生活にふさわしい節度ある飲酒を呼びかけるとともに、20歳未満飲酒防止、飲酒運転防止、妊産婦飲酒防止などの取り組みを推進します。

この基本方針に則り、グループ各社では、事業で酒類を取り扱うサッポロビールとサッポロライオンを中心に、適正飲酒の周知活動に取り組んでいます。

2030年までの中長期目標

「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進しています。

目標達成に向けた取り組み

- 大学や企業を対象とした適正飲酒啓発活動を実施
- 小中学生向け飲酒防止啓発小冊子の無料配布
- 広告・宣伝に関する規定の遵守、商品への表示・メッセージによる不適切飲酒の防止
- 飲酒運転防止に向けたノンアルコール飲料などの商品開発
- 従業員に対するe-ラーニング等による適正飲酒教育
- 清涼飲料との誤飲防止「サワーグラス」導入(サッポロライオン)



小中学生向け小冊子



飲酒運転防止に向けた商品開発

責任ある飲酒国際同盟

サッポロビールは2013年以降5年間にわたり、GAPG加盟団体であるビール酒造組合(※)のメンバーとして、このコミットメントに沿った適正飲酒への取り組みを展開しました(※2015年1月以降はIARDに加盟)。今後も引き続き取り組みを強化していきます。



4つの約束に 基づく取り組み

約束

2

社会との共栄

地域社会の一員として地域の
発展や課題解決に貢献し、
地域の皆様やサプライヤーの皆様と
ともに良い未来を創造します。



▶ 地域貢献

連携協定を通じた社会課題の解決

サッポログループは創業以来ゆかりのある土地や地域社会との「繋が
り」を大切にしてきました。

2007年の北海道との包括連携協定締結を皮切りに、2020年2月
には福島県と協定を締結しました。全国の自治体や大学と締結した協定
の数はのべ63件(2020年2月現在)となっています。今後も地域への
貢献やまちづくり、防災など、さまざまな社会課題解決に向けた取り組
みを継続していきます。



「箱根駅伝」を34年にわたって応援

日本のお正月の風物詩ともいえる「箱根駅伝」。サッポログループでは
1987年から34年にわたり「箱根駅伝」を応援してきました。

毎年グループ従業員が芦ノ湖の往路フィニッシュ付近にてチャリティー販売
を実施し、その売上の一部を神奈川県箱根町のトラスト基金に贈呈しています。

箱根駅伝を支える選手、関係者と
その家族、また周辺地域との繋がりを
大切にしながら、これからも将来に
わたり絆を繋いでいきます。



「海ごみゼロウィーク」清掃活動実施

「海ごみゼロウィーク」は、海洋プラスチックが世界的な問題となってい
る中、毎年5月末から6月初めの期間に日本全体が連携し、海洋ごみの
調査、削減のためのアクションを行うことを目的として、環境省および(公
財)日本財団が呼び掛けている活動です。

サッポログループでは、例年この時期に神奈川県藤沢市の片瀬西浜
海岸で清掃活動を実施しています。2019年は「海ごみゼロウィーク」の
活動として実施しました。地元で活動するNPO法人西浜サーフライフ
セービングクラブの皆さんと一緒に、グループ従業員・家族・知人など
総勢約170名が参加しました。

さらに、ポッカサッポロでは、2019年5～6月を「海ごみゼロウィーク」
期間と定め、全国19の事業所からのべ322名が参加して公園や事業所
周辺の清掃活動を行いました。



4つの約束に基づく取り組み

約束 2 社会との共栄



▶ 地域貢献

アイヌ文化振興を継続支援

サッポログループはふるさと北海道への支援の一環で、アイヌ語を含むアイヌ文化の振興に注力している(公財)アイヌ民族文化財団と、北海道遺産の選定、北海道遺産構想の普及・啓発活動などを行うNPO法人北海道遺産協議会に対し、2015年より毎年夏に開催している「札幌麦酒祭り」のビール売上金相当額を寄付しています。2019年度は両団体に加え「赤レンガ庁舎改修事業」も支援対象とし、総額150万円を寄付しました。2020年には白老町に「ウポポイ(民族共生象徴空間)」がオープン予定で、北海道の観光資源として期待されています。また、2018年よりTVアニメ「ゴールデンカムイ」とタイアップしたサッポロクラシック「ゴールデンカムイ缶」を北海道限定で発売するなど、今後もアイヌ文化振興を支援していきます。



©野田サトル/集英社・ゴールデンカムイ製作委員会

北海道を舞台にした新たな挑戦を支援する
共創活動「ほっとけないどう」

北海道を舞台に新たなプロジェクトにチャレンジしたい「挑戦者」と、その活動を支援したい「応援者」を繋ぐコミュニティづくりを目指した共創活動「ほっとけないどう」が2019年6月にスタートしました。

取り組みの中心となるのは、「ほっとけないAWARD(プレゼンテーションイベント)」で、挑戦者が発表したプロジェクトに対して資金協力できる「カンパイ★ファンディング」が行われます。「ほっとけないBAR」でドリンク、また、2020年4月に発売した「カンパイ★ファンディング缶」を購入することにより、支払額の一部を支援したいプロジェクトへ資金協力できる仕組みです。

サッポロビールはこの取り組みを通して、創業の地である北海道がさらに活性化していけるように応援していきます。

ほっとけないどうHP: <https://hottokenaido.com/>

挑戦と応援をほっとけないの、北海道。



▶ 持続可能な調達

サプライヤー様に向けて

サステナビリティ調達についての説明会を実施

サッポログループは、「サッポログループ調達基本方針」「サッポログループサプライヤーサステナビリティ調達ガイドライン」のもと、「安全・品質」「コンプライアンス」「人権・労働」「環境保全」「社会との共栄」「アルコール関連問題」の6つの主題に関し、サプライヤー様と双方向のコミュニケーションを図り、協働でサステナビリティに取り組むことによって、健全で豊かな社会の実現を目指しています。

サプライヤー様向けマーケティング方針説明会では、サッポログループのサステナビリティ調達について説明や解説を行っています。



4つの約束に基づく取り組み

約束 2 社会との共栄



▶ 復興支援の継続

復興大臣から感謝状贈呈

東日本大震災被災地への継続的な復興支援活動が評価され、復興庁の渡辺博道復興大臣(当時)より感謝状が贈呈されました。これからは被災地の皆様とともに、東北の未来に向けて、活動していきます。



「ふくしまフェスタ in 恵比寿」開催

福島県が開催している「ふくしまフェスタ」を「恵比寿ガーデンプレイス」で開催しました。特産品の販売や観光PRが行われ、福島県の応援団!「HAPPYふくしま隊」「伊達武将隊」「キビタン」も来場し、フェスタを盛り上げました。



宮城県女川町「子ども神輿」の修復支援

宮城県女川町白山神社の「子ども神輿」の修復支援として寄付金を贈呈し、同神社の5月の例大祭で2010年以来9年ぶりに披露されました。子どもたちの笑顔と地域コミュニティの一助となるよう願っています。

サッポロライオンが食材とオリジナルロゴマークで復興応援

サッポロライオンでは、被災地の食材を取り入れた証である「復興応援ロゴマーク」を冠することで、各地の食材のおいしさを発信し、お客様とともに復興を応援しています。

「恵比寿麦酒祭り」の売上金を復興支援に

2009年から「恵比寿ガーデンプレイス」で開催している「恵比寿麦酒祭り」では、2011年よりビール売上から東日本大震災復興支援活動に寄付しています。

2016年からは熊本地震、2018年は北海道胆振東部地震、西日本豪雨にも寄付を行いました。2019年までの寄付金総額は約1億5千万円となっています。

株主優待制度を活用した次世代育成支援

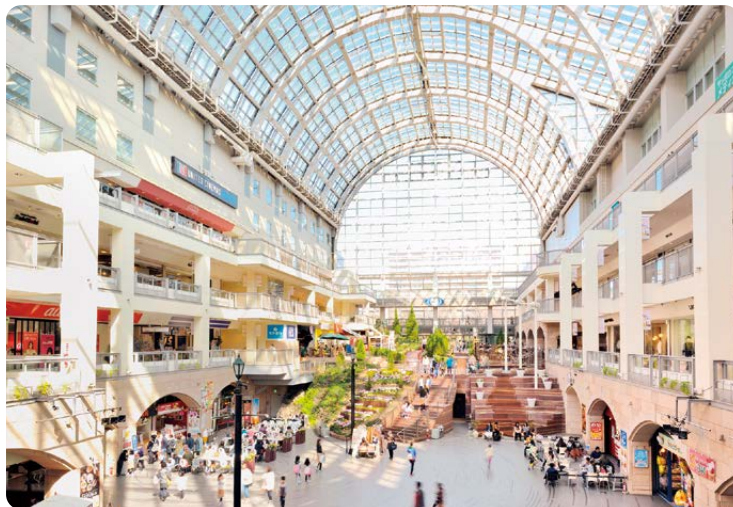
サッポロホールディングスでは、2008年12月期より優待品の代わりに寄付を選択していただいた株主様の寄付金に当社が同額を加えた金額を社会貢献に役立てています。2012年からは東北の復興支援に活用しており、2019年は2018年分の総額317万2,000円を次の3つの取り組みに対して寄付しました。

- ・岩手県大船渡市へ「椿」をテーマとした学習支援」
- ・岩手県大槌町へ「小中一貫教育の柱“ふるさと科”学習支援」
- ・福島県へ「“国内外の高校生が発信する風評被害払拭”事業支援」



地域社会との「繋がり」を深める —— サッポログループのまちづくり

サッポログループは創業以来、「ものづくり」の原点を忘れずに、原材料にこだわり、品質へのさまざまな取り組みを行うと同時に、ゆかりある土地や地域社会との接点、繋がりを大切に「まちづくり」にも取り組んできました。さまざまな企業活動を通じて、お客様に「笑顔」と「おいしさ」、「潤い」と「豊かさ」をお届けすることで、信頼され、そして地域社会の発展に貢献するグループであり続けたいと考えています。



サッポロファクトリー

SAPPORO

札幌

開拓使麦酒醸造所の跡地は、 地域の方々の憩いの場に

サッポロビールの前身である「開拓使麦酒醸造所」を開所した札幌は、サッポログループにとって「創業の地」であると同時に日本のビールの発祥地ともいえます。

開拓使麦酒醸造所の跡地に開業した「サッポロファクトリー」には、開拓使時代の歴史をたどることができる見学施設をはじめ、さまざまなショップやレストラン、ホテル、映画館、サービス施設などが集まり、地域の方々の憩いの場となっています。

日本で唯一のビール博物館である「サッポロビール博物館」は、偉人たちが情熱を傾け誕生した日本のビールの歴史



そのものを伝えるとともに、ビールにかけた想いやストーリーを発信しています。サッポロビール園とともにサッポロガーデンパーク内にある施設で、明治の面影を残す赤レンガの建物は「北海道遺産」にも選定されています。

札幌市とともに、 ビールを通してまちづくり

札幌市は1972年、世界的なビールのイベント「オクトーバーフェスト」で有名なドイツのミュンヘン市と日本で唯一の姉妹都市を締結。以来、さまざまなイベントを通じて互いに友好を深めており、サッポログループも積極的に協力しています。姉妹都市締結40周年を記念して始まった「ビールでまちづくり さっぽろ」プロジェクトでは、2011年から「オータムビヤフェスト」が「サッポロファクトリー」でスタートし、おいしいビールと料理で皆様に喜んでいただいています。

4つの約束に基づく取り組み

約束 2 ★ TOPICS



恵比寿ガーデンプレイス

YEBISU

恵比寿

街の名になったビール、エビス

1889年、荏原郡三田村(現在の東京都目黒区三田)に「恵比寿ビール」の醸造場が完成しました。1901年、ビール出荷専用駅として「恵比寿停車場」が開設され、その後旅客駅(現在のJR恵比寿駅)となり、街の名も「恵比寿」となりました。商品ブランドが街の名になるという非常に珍しい事例です。

エビスビール生誕地にある「エビスビール記念館」は「エビスのすべてがそこにある」をコン

セプトに、多くの来場者にエビスブランドの世界観を体感していただいています。

地域に根ざした
「まちづくり」と「笑顔づくり」

「エビスビール」の工場跡地に複合商業施設のパオニアとして開業した「恵比寿ガーデンプレイス」は、2019年10月8日に25周年を迎えました。

「まちや社会とともに、『豊かな時間』と『豊かな空間』を創り、育む」ことを実現するため、地域に根ざした「まちづくり」と「笑顔づくり」をモットーに、まちに住む人、働く人、訪れる人が楽しみ、憩う魅力的なまちづくりに取り組んでいきます。

GINZA

銀座

ゆかりある銀座で最高品質のビールをお届け

サッポロビールの前身である日本麦酒醸造会社が1887年に現在の銀座二丁目で設立されて以来、銀座は大変ゆかりのある街です。サッポロライオンは1899年8月4日、現在の銀座八丁目に開業した日本初のビヤホール「恵比寿ビヤホール」が発祥であり、2019年に120周年を迎えました。創業日の8月4日は「ビヤホールの日」に認定されています。



ビヤホールライオン 銀座七丁目店

1934年開店の「ビヤホールライオン 銀座七丁目店」は現存する日本最古のビヤホールとして、今なお多くのお客様に愛され続けており、徹底した品質管理と伝統の抽出技術による最高品質の生ビールを常にお届けしています。

2016年、銀座四丁目の交差点の一角に「発信と交流の拠点」をコンセプトにした商業施設「GINZA PLACE(銀座プレイス)」を開業。さらなる街の活性化と賑わい創出に寄与すべく、「明日の銀座を創るランドマーク」となることを目指しています。

4つの約束に 基づく取り組み

約束

3

環境保全

自然の恵みを未来に受け継ぐため、事業の各段階において環境保全に取り組み、従業員一人ひとりが主体的に環境活動を推進します。



▶ 地球温暖化防止・3Rの推進

紙製飲料容器「カートカン」で新商品を発売

ポッカサッポロは、1996年より飲料業界に先駆けて、間伐材を含む国産材を30%以上使用した「カートカン」を採用しています。また、2004年に設立された紙製飲料容器の普及団体「もりかみ協議会」（森を育む紙製飲料容器普及協議会）に発足当初より参画し、身近なエコ活動ツールとして「カートカン」の普及に努めています。

「カートカン」は間伐材を使用することによって、森林保全・育成に繋がり、森林におけるCO₂の吸収を促すことで、地球温暖化防止に寄与しています。

2020年2月には、企業・団体の皆様が会議や来客用にご利用いただけることをコンセプトとした新商品「旨みまろやか緑茶」を発売しました。昨今の環境意識の高まりから、プラスチック製容器以外の飲料を希望される企業・団体の皆様に好評です。

また、売上金の一部を「緑の募金」に寄付しており、森林整備を行うボランティア団体などの活動資金として活用されています。



「ビールテイスト飲料用軽量アルミ缶蓋の開発」でCO₂排出を削減

サッポロビールは「ビールテイスト飲料用軽量アルミ缶蓋の開発」において、(公社)日本包装技術協会が主催する「第43回木下賞 改善合理化部門」を2019年6月に受賞しました。この開発は大和製罐(株)様が設計製造を行い、当社が実用化評価を実施した協働の取り組みで、缶蓋の約7%軽量化を実現しました。使用するビールテイスト商品の缶蓋すべてを同製品に切り替えた場合、2018年実績で約1,200トンのCO₂排出量の削減効果が見込まれます。同製品の特長は、形状を工夫し缶蓋表面に凹み(ビード形状*)を採用することで、缶蓋を薄くしてアルミ使用量を削減しながらも従来缶蓋と同等の品質を確保したことです。2022年までにビールテイスト飲料を中心に全工場への展開を目指しています。

* 缶蓋表面に施した溝状の凹凸のこと。



左：現行缶蓋 右：軽量アルミ缶蓋

TOPICS

植物性素材を活かした商品で新たなライフスタイルを提案

昨今、地球温暖化などの環境に対する意識や健康意識が高まり、ライフスタイルにおいて植物性素材が注目されています。

ポッカサッポロは、これまでもレモンなどの植物性素材をさまざまな形で提供してきましたが、新たに大豆に着目。2015年に豆乳ヨーグルト事業に参入し、2018年に新ブランド「SOYBIO豆乳ヨーグルト」を発売しました。さらに2019年には群馬工場内に豆乳ヨーグルトの製造ラインを新設し、大容量タイプ「SOYBIO豆乳ヨーグルト400g」を新発売しました。豆乳ヨーグルトの市場は近年伸長しており、今後も成長が見込まれます。

また、2018年にはアーモンドミルク「アーモンド・ブリーズ」の販売を開始。牛乳・豆乳に続く第三のミルクとして提案しています。今後も植物性素材を原料とした商品拡大に取り組み、健康のみならず、環境課題の解決に繋げていきます。



4つの約束に基づく取り組み

約束 3 環境保全



▶ 自然との共生

地域の環境保全を支援

サッポロビールは、2016年よりサッポロ生ビール黒ラベル「信州環境保全応援缶」を長野県で数量・期間限定で発売しています。長野県とは「生物多様性保全パートナーシップ協定」を2017年に締結、本商品の売上1缶につき1円の寄付を行い、継続的に信州の環境保全に取り組んでいます。また、サッポロ生ビール黒ラベル「埼玉県環境保全応援缶」を2019年11月に発売、「海と日本プロジェクトin埼玉県」を応援しています。北海道では、コープさっぽろ様と北海道との協働による「北海道の森を元気にしよう!(現在は「北海道の森に海に乾杯!）」キャンペーンを2013年より実施しており、北海道の森林保全活動を支援しています。

また、(株)沖縄ポッカコーポレーションでは、世界自然遺産登録を目指す本島北部のやんばる地区を応援するため、やんばる地区の自然観光地や希少な生き物をデザインした特別パッケージの「元祖さんびん茶」を2020年3月に数量限定で発売しました。売上の一部は環境保全活動に寄付します。

サッポロビール仙台工場「緑化優良工場等東北経済産業局長表彰」受賞

工場緑化を積極的に推進し、工場内外の環境向上に顕著な功績のあった工場として、仙台工場が「2019年度緑化優良工場等東北経済産業局長表彰」を受賞しました。同賞の受賞は、2014年度



以来5年ぶりで、さらに宮城県では2005年度以来14年ぶりとなります。

仙台工場は1971年の竣工以来、自然環境との調和や地域社会との共生を大切にする工場づくりを目指し、積極的に工場緑化に取り組んできました。また、清掃活動・環境保全への取り組みなど、地域社会への貢献度も評価されました。

恵比寿ガーデンプレイス内の「サッポロ広場」を農園化

NPO法人アーバンファーマーズクラブ様をパートナーとして、「アグリテインメント」(「アグリカルチャー」と「エンターテインメント」を合成した造語)をテーマに、サッポログループ本社棟に面する「サッポロ広場」を恵比寿地域のコミュニティ拠点として農園化し、みんなで楽しく野菜を育てるカルチャーをつくることを目指し、2020年に取り組みを開始しました。

世代間の垣根を越えたコミュニティの醸成、また、農業を通じた“体験と学びの場”を提供することにより、近隣にお住まいの皆様とともに、食と農で社会課題解決に繋がるよう取り組んでいきます。



4つの約束に 基づく取り組み

約束

4

個性かがやく
人財の輩出

従業員の多様性を尊重し、
一人ひとりの能力を最大限発揮できる
環境整備と、心と体の健康維持・
増進、安全に向けた取り組みを
推進します。



健康経営

「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」に認定

サッポロホールディングスとグループ企業各社は、経済産業省が健康経営銘柄に準じた先進的な企業を選ぶ「健康経営優良法人2020」の認定を受けました。

サッポログループでは、長期経営ビジョン「SPEED150」の中で「最大の財産は人財であり、グループの人財が、心身ともに健康で、元気で明るく前向きなエネルギーをもって新たな領域に挑戦・越境し、サッポログループで働いていて良かったと思える企業を目指す」ことを掲げており、「健幸創造宣言」を策定し、働き方改革と併せてグループ全従業員の健康維持増進に向けた取り組みを行っています。

今後もサッポログループ全従業員の健康増進に向けて、さらなる取り組みの強化を図っていきます。

サッポロホールディングス(株)、サッポロビール(株)、
ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、
(株)サッポロライオン



「がんアライアワード2019」受賞

サッポロビールとポッカサッポロは、がんに関しても働きやすい制度と対話を充実させることにより、会社の強さに繋げる取り組みを進めています。がんに関わった従業員やその上司に向けた「治療と就労の両立支援マニュアル」を作成し、必要な情報をすぐに得られるようにしているほか、「時間有休制度」「スーパーフレックス」「テレワーク」の導入によって柔軟な勤務を可能にすることで、治療を続けながら就労を継続できる体制などを整えています。

こうした取り組みが評価され、両社は、がんと就労問題に取り組む民間プロジェクト「がんアライ部」主催の「がんアライアワード2019」を受賞しました。サッポロビールは、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」の発足が評価され、2年連続の「ゴールド」受賞。ポッカサッポロは2019年が初エントリーで「シルバー」の受賞となります。

サッポログループは従業員のあらゆる多様性を尊重し、一人ひとりの能力を最大限発揮できる環境整備を強化することに取り組んでいます。この受賞を励みに、がんに関わっても、働き続けられる社会であることを望むとともに、がんを経験した従業員の想いを大切に、すべての従業員の学びと成長に繋がります。



4つの約束に基づく取り組み

約束 4 個性かがやく人財の輩出



▶ ダイバーシティ・人権

サッポロマネジメントセミナーの開催

サッポログループでは、多様性のあるすべての従業員の経験、能力、考えなどが活かされている「ダイバーシティ・インクルージョン」を推進しています。

2020年はLGBT当事者と社内のがんサバイバーをスピーカーとして、管理職を対象としたマネジメントセミナーを開催しました。外見ではわかりにくい多様性の存在や当事者の思いなどを理解することで、従業員の一人ひとりに目を向け尊重し合い、多様な人財が持つ能力を最大限発揮できる職場環境づくりについて考え、行動を促す機会としました。

今後も継続的に、職場で重要な役割を担う管理職向けにマネジメントの啓発を行います。



▶ 人財開発・育成

社内インターンプログラム

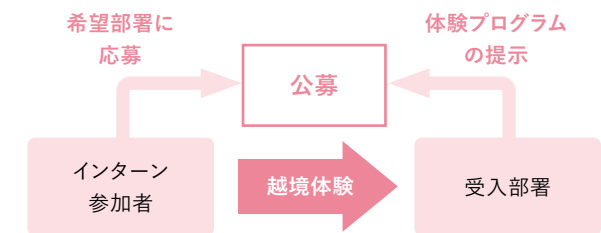
サッポログループでは、キャリア開発を目的とした新たな施策として、「社内インターンプログラム」を2019年に試験導入しました。若手・中堅社員のキャリア開発と部門間を越えたコミュニケーションを活性化する風土の醸成を目的として、希望する部署で業務に従事することで、インターン受入部署で現在の業務に役立つ経験を積み、今後のキャリアに活かす取り組みです。インターン受入部署も、新しい人財が短期間加わることで、今までにない新しい気づきを得られるといった相乗効果が期待されています。

「ひらめき!ラボ」

ポッカサッポロの働き方改革推進チームの発案で生まれた自主勉強会「ひらめき!ラボ」。働き方改革によって「!」(ひらめき)を生み出すための刺激を受ける時間を創り出し、皆で学び、対話するというプロセスを楽しみながら、意識・思考の変化や新たな行動に繋げる場をつくる取り組みを推進しています。

「新しい発想やイノベーションを生み出すには?」「強くて良い会社にしていくためには?」「働き方を変えるには?」—こうしたテーマを扱う「ひらめき!ラボ」は、あくまで業務外の活動です。フレックスタイムやテレワークの活用、業務フローを見直すことで時間を創出し、従業員の友人・知人も交えた勉強会やワークショップ、セミナーなどを開催しています。

社内インターンプログラム概要図



※ 越境体験後、共有会・事業場報告会の実施



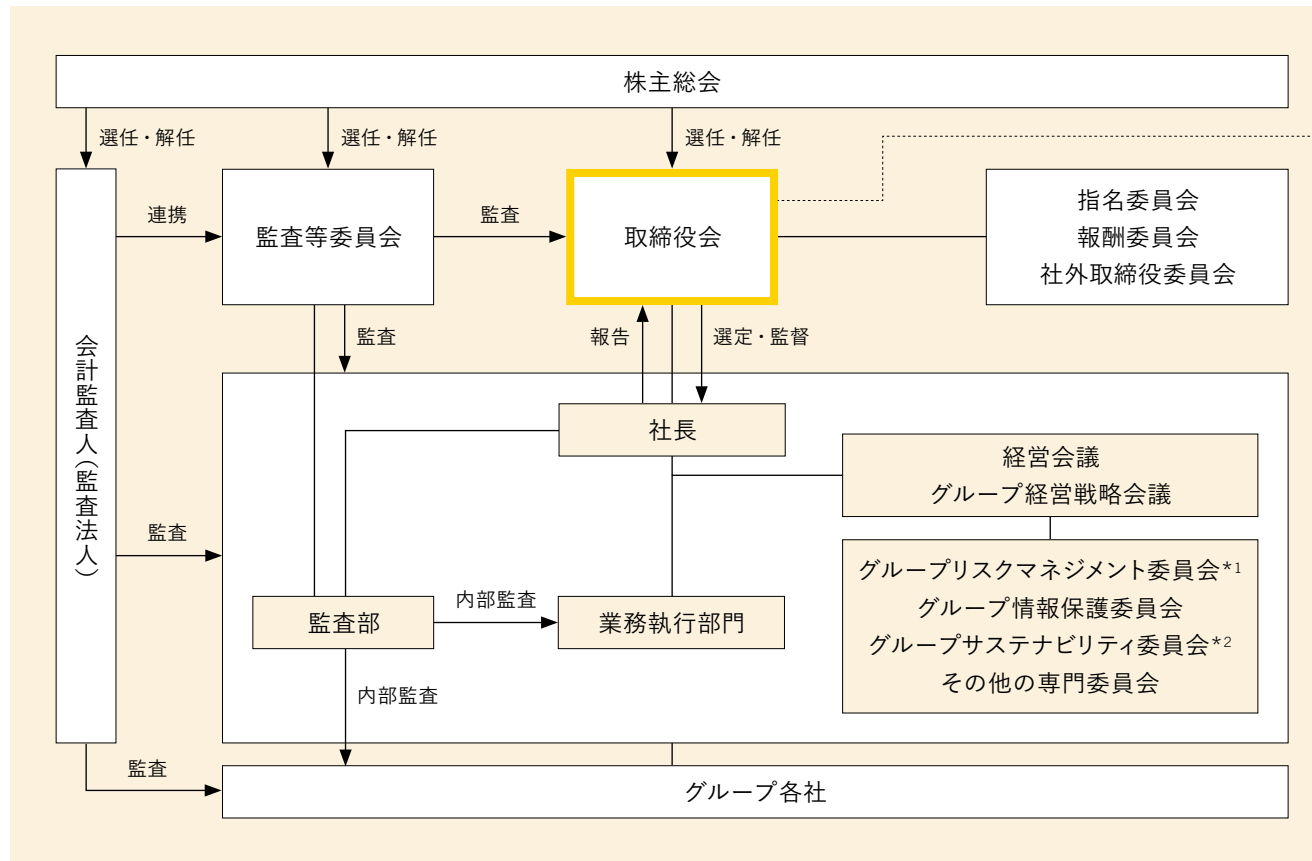
コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスに関する基本方針

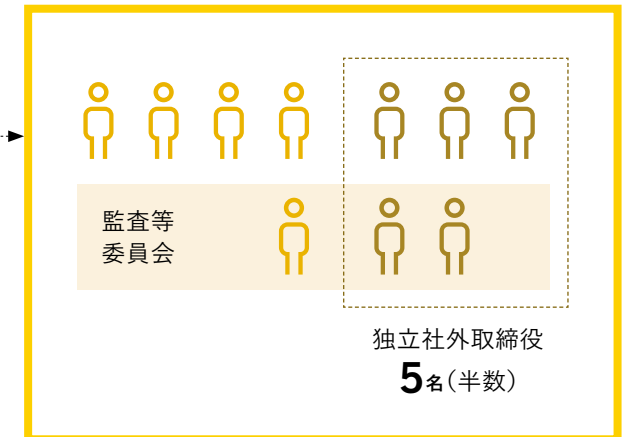
当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現に向け、東京証券取引所上場規則における「コーポレートガバナンス・コード」の趣旨・精神を踏まえた上で、当社のコーポレートガバナンスに関する考え方および運営方針を明確化するため、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しています。

本方針の中で、コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方として、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要な課題の一つとして位置付け、持株会社体制のもとでグループ内における監督機能、業務執行機能および監査機能を明確化し、経営における透明性の向上と経営目標の達成に向けた経営監視機能の強化に努めています。

サッポログループのコーポレートガバナンス体制



取締役会の構成



*1 グループリスクマネジメント委員会 委員長：代表取締役社長

*2 グループサステナビリティ委員会 委員長：代表取締役社長

リスクマネジメント

リスクマネジメント方針

サッポログループでは、業務執行上の重要な意思決定ないし事業遂行などに内在するリスクの管理体制と緊急事態における危機管理体制を構築し、PDCAサイクルを回していきます。

当社では、グループ全体のリスク管理体制を強化することで、健全な企業経営を行い、企業価値の持続的な向上を図っています。また、長期経営ビジョン「SPEED150」実現に向けた戦略を推進する中で新たなリスクが発現する可能性についても認識しており、当社および子会社に係るリスク管理や危機管理を行っています。特に以下の3点に留意・注力しています。

● 人命・安全の確保 ● 品質の追求 ● コンプライアンスの徹底

リスクマネジメント体制

サッポログループでは、損失の危険を適正に管理するため、次のとおりリスクマネジメント体制を構築しています。

(1) 重要な意思決定ないし事業遂行等に内在するリスクの管理

業務執行上の重要な意思決定ないし事業遂行等に内在するリスクは、経営会議において管理することとし、同会議における審議・報告事項などに対して、総務・経理・法務などの管理部門がそれぞれ想定されるリスクを分析し、同会議に必要な報告を行います。

(2) 緊急事態における危機管理

緊急事態の発生、あるいは緊急事態に繋がる恐れのある事実が判明した際の危機管理対応については、グループリスクマネジメント委員会が子会社の危機管理組織などと連携して、情報開示も含む対応策を協議し、迅速かつ適正に行います。

新型コロナウイルス感染拡大への対応方針と取り組みについて

当社は酒類や食品・飲料の製造や外食に携わる企業として、お客様への供給責任を果たすべく、感染症リスク低減に対策を講じながらも国内および海外における各事業拠点で生産・物流業務を継続しています。また、不動産事業においては、保有施設の安全・安心の維持継続に取り組んでいます。

現在サッポログループでは、従業員ならびにお客様・お取引先様の感染症拡大防止および地域社会との連携・協力を努めています。引き続き最新の動向を注視し、最大限の対策を講じてまいります。

感染拡大防止・リスク低減のための従業員対応 (2020年6月現在)

- ・「3つの『密』」回避徹底
- ・部署ごとの出勤者を50%上限とする等の「新たな勤務ルール」の制定
- ・手洗い等、個々の体調管理徹底と異常時の会社連絡指示

地域社会との連携・協力 (2020年6月現在)

- ・消毒用エタノールの代替品として「高濃度エタノール製品(60vol%以上)」の製造・提供
- ・「サッポロ SORACHI1984カンパイ★ファンディング缶」の一部売上金の寄付活動
- ・スリーマン社(カナダ)での地域社会およびレストラン事業団体の活動支援に向けた寄付活動
- ・サッポロUSA社(アメリカ)でのレストラン事業関連2団体への寄付活動 など

コンプライアンス

当社では、すべての役員・従業員に確かな倫理観に基づく行動を促す規範として「サッポログループ企業行動憲章」を定めています。グループリスクマネジメント委員会のもと、総務部を事務局として、グループ全体のコンプライアンス体制を構築し、不正行為の未然防止・早期発見を目的とする企業倫理ホットラインを設置しています。また、業務執行ラインから独立した内部監査組織である監査部が、当社および子会社の業務全般を対象に法令・定款・社内規程の遵守状況について監査を行っています。

グループ共通施策

サッポログループでは、下記の施策をグループ共通で展開し、グループ各社が主体となって取り組みを行っています。

1 ミニブックの作成・配布

コンプライアンスに関するグループ共通の事項を記載した、携行用のミニブックを作成し、従業員に配布して、コンプライアンス推進に必要な事項の周知を図っています。

主な掲載内容

サッポログループの経営理念、企業行動憲章や主要なグループ規程、企業倫理ホットラインなどの相談窓口、ハラスメント防止や個人情報保護、反社会的勢力排除の取り組みなど

2 グループ共通コンプライアンスe-ラーニングの実施

従業員一人ひとりが、企業行動憲章および重要なグループ基本方針・規程、重要法令を理解し、確かな倫理観に基づいて行動すること、そしてそれにより、日常の行動におけるコンプライアンスリスクの低減を図ることを目的として、2007年以降、すべての従業員を対象としたコンプライアンスe-ラーニングを実施しています。

現在は年4回実施しており、対象者のコンプライアンス意識の向上と知識の定着に向けた継続的な取り組みとなっています。

3 ケーススタディによる職場勉強会

コンプライアンス意識のさらなる向上や、倫理的な価値判断の職場での共有を目的として、コンプライアンス事例集である「サッポロケースブック」(2008年初版発行、2013年改訂版発行)などを用いた勉強会を、職場ごとに実施しています。

4 従業員のコンプライアンス意識調査

コンプライアンス意識や企業行動憲章に基づいた行動が従業員に浸透しているかを確認するため、グループ共通で従業員意識調査を実施しています。また、その結果をグループ各社の経営層に報告することで、コンプライアンス施策に役立てています。

2007年から2012年までは、原則2年ごとにコンプライアンス意識調査を実施しました。2013年以降は、人事部門主催の従業員意識調査の中でコンプライアンスに関する調査を実施しています。

グループ各社の独自施策

グループ横断施策以外に、グループ各社では下記のような独自の取り組みも行っています。

サッポロライオン

4コマ漫画を用いた教材を毎月発行

外食事業の特性上、店舗数およびパート・アルバイト従業員も多いため、集合研修による教育・啓発は頻繁に実施できません。そこで、短時間のミーティング等でコンプライアンス上の問題が理解できるよう、4コマ漫画を用いた独自の教材「ライオン日和」を月1回発行。その時々テーマをわかりやすく伝えることで、コンプライアンス意識の浸透に努めています。

サッポロ不動産開発

タイムリーなコンプライアンスのトピックを解説する教材を毎月発行

従業員のコンプライアンス意識向上のため、15ページ程度の学習教材「旬のこんぶら定食」を毎月独自に作成し、従業員がネット上で学習しています。この学習により、複雑化の進むコンプライアンスに関する知識を、楽しみながらタイムリーに習得し、日々の業務に活かしています。

サッポログループの事業展開

1 SAPPORO EUROPE B.V.

事業内容：欧州全域での酒類販売

1



4 サッポロビール株式会社

事業内容：ビール・発泡酒・新ジャンル・
ワイン・焼酎などの製造販売

5 株式会社サッポロライオン

事業内容：総合レストランチェーン

4 5

2 SAPPORO VIETNAM LTD.

事業内容：ビールの製造・販売

2



3

3 SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.

事業内容：飲食店の運営

8 SLEEMAN BREWERIES LTD.

事業内容：ビールの製造・販売

8



6 7

6 ANCHOR BREWING COMPANY, LLC

事業内容：ビールの製造・販売

7 SAPPORO U.S.A., INC.

事業内容：ビールの販売



主要グループ関係会社

酒類事業

サッポロビール株式会社	4	株式会社ニュー三幸		SLEEMAN BREWERIES LTD.	8
株式会社恵比寿ワインマート		株式会社マルシンカワムラ		SLEEMAN BREWING COMPANY USA INC.	
株式会社楽丸酒造		株式会社銀鱗水産		SAPPORO ASIA PRIVATE LTD.	
サッポロフィールドマーケティング株式会社		株式会社ハンエイ		SAPPORO VIETNAM LTD.	2
株式会社新星苑		SAPPORO EUROPE B.V.	1	SAPPORO VIETNAM DISTRIBUTION QUEBEC LTD.	
サッポログループ物流株式会社		SAPPORO U.S.A., INC.	7	SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.	3
サッポロ流通システム株式会社		ANCHOR BREWING COMPANY, LLC	6	京葉ユーティリティ株式会社*	
株式会社サッポロライオン	5	SAPPORO CANADA INC.			

* 持分法適用関連会社

サッポログループの事業展開

**1 POKKA PTE. LTD.**

事業内容：飲料水の製造・販売

2 POKKA ACE (M) SDN. BHD.

事業内容：飲料水の受託生産

3 POKKA (MALAYSIA) SDN. BHD.

事業内容：飲料水の受託生産

4 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

事業内容：飲料水および食品事業、外食事業、その他

5 サッポロ不動産開発株式会社

事業内容：不動産の賃貸管理、不動産開発、ホテル運営等

主要グループ関係会社

食品飲料事業

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 **4**

ポッカサッポロ北海道株式会社

株式会社沖縄ポッカコーポレーション

株式会社ポッカクリエイト

フォーモストブルーシール株式会社

株式会社PSビバレッジ

株式会社バブリック・ベンディング・サービス

スタービバレッジサービス株式会社

ポッカサッポロオフィスサポート株式会社

沖縄サンポッカ株式会社

磐田ポッカ食品株式会社

沖縄ポッカ食品株式会社

ヤスマ株式会社

神州一味噌株式会社

POKKA PTE. LTD. **1**POKKA ACE (M) SDN. BHD. **2**POKKA (MALAYSIA) SDN. BHD. **3**

POKKA LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.

不動産事業

サッポロ不動産開発株式会社 **5**

株式会社東京エネルギーサービス

YGPリアルエステート株式会社

株式会社ザ・クラブ・アット・エビスガーデン*

その他

サッポログループマネジメント株式会社

サッポロウエルネスラボ株式会社

* 持分法適用関連会社

サッポログループの国内の主な工場・施設

●：見学・体感が可能な工場・施設

1 札幌



● サッポロビール博物館



● 札幌開拓使麦酒醸造所



● サッポロファクトリー



● ホテルクラブサッポロ

2 恵庭



● サッポロビール北海道工場

3 宮城



● サッポロビール仙台工場 /
● ポッカサッポロ仙台工場

4 栃木



● サッポロビール那須工場

5 群馬



● サッポロビール群馬工場



● ポッカサッポロ群馬工場

6 千葉



● サッポロビール千葉工場

7 銀座



● ビヤホールライオン 銀座七丁目店



● GINZA PLACE

8 恵比寿



● エビスビール記念館



● 恵比寿ガーデンプレイス



● グランポレール勝沼ワイナリー

10 長野



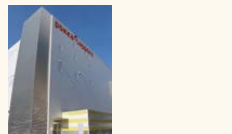
● 神州一味噌 丸高蔵

11 静岡



● サッポロビール静岡工場

12 名古屋



● ポッカサッポロ名古屋工場

13 岡山



● サッポロビール岡山ワイナリー



● サッポロビール九州日田工場

15 沖縄



● ブルーシールアイスパーク



※ 詳しくは、サッポロホールディングスWebサイト「サッポログループ
の見学・商業施設」をご覧ください。
https://www.sapporoholdings.jp/company/tour_facility/



コーポレートデータ

会社情報

商号	サッポロホールディングス株式会社
事業内容	持株会社
設立	1949年9月1日
本社所在地	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
資本金	53,887百万円
事業年度	1月1日から12月31日まで
従業員数	連結：7,736名 単体：305名

Webサイトのご案内

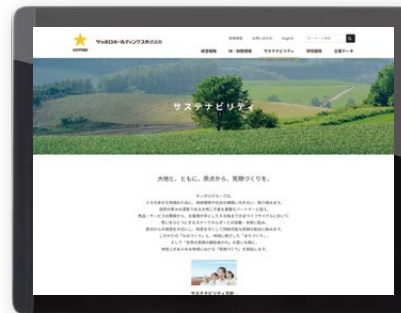
詳細情報(各事業ごとの活動や財務・非財務データ、サステナビリティ、ガバナンス情報など)につきましては、当社 Web サイトをご覧ください。

コーポレートサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/>

サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/csr/>



「サステナビリティブック 2020」PDF版

「サステナビリティブック 2020」PDF版は
こちらからご覧いただけます。

https://www.sapporoholdings.jp/csr/sustainability_book/



外部からの評価

▶ SRI インデックスへの
組み入れ



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan



▶ 「第43回木下賞 改善合理化部門」を受賞

▶ 「健康経営優良法人2020
大規模法人部門(ホワイト500)」に認定



▶ 「プラチナくるみん」を継続取得



▶ 日経「スマートワーク経営」で
星4.5を獲得





サッポロホールディングス株式会社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
<https://www.sapporoholdings.jp/>

Printed in Japan